

フィリピン～“バスーラ”<sup>\*</sup>の子どもたちを救う、  
トラットリア・エンの手作り焼き菓子。



※バスーラ：フィリピンの首都マニラ北にあるスモーキーマウンテン近くのゴミ捨て場。『東洋一のスラム』と呼ばれ、多くの貧困層がゴミ拾いで生計を立てている。  
ボランティアの拠点『バスーラの家』では、今日も日本人スタッフが支援活動を精力的に続けている。

## DOLCE FOR CHILDREN IN BASURA

当店では焼き菓子の売上の50%を  
フィリピン～バスーラの子どものための  
教育支援活動に寄付しています。

TRATTORIA EN



焼き菓子をお買い求めいただくと、フィリピンの子どもたちを救えます。

# DOLCE FOR CHILDREN IN BASURA



## 映画『BASURA バスーラ』

監督・編集：四ノ宮 浩（しのみやひろし）

製作プロデューサー：森崎備陸/長島洋

配給プロデューサー：金子学

撮影：大廣康夫/瓜生敏彦（『忘れられた子供たち スカベンジャー』）

整音：久保田幸雄

エンディングテーマ曲：坂本龍一『hwiT』（アルバム『Tout of noise』より）

音楽協力：Wong Wing Tsan

製作協力：独立行政法人 国際協力機構（JICA）

協賛：株式会社資生堂

協力：社団法人 企業メセナ協議会

後援：財団法人 日本ユニセフ協会

フィルム協力：富士フィルム株式会社

共同配給：通安ドキュメンタリーオフィス

共同製作：映画5000人製作委員会

製作・配給：オフィスフォープロダクション

2009年製作 / 上映時間 103分 / HDCam

推奨・認定：文部科学省選定（青年向け、成人向け、家庭向け）

東京都推奨映画

※バスーラ：フィリピンの首都マニラ北にあるスモークーマウンテン近くのゴミ捨て場。『東洋一のスラム』と呼ばれ、多くの貧困層がゴミ拾いで生計を立てている。ボランティアの拠点『バスーラの家』では、今日も日本人スタッフが支援活動を精力的に続けている。

### 【製作クレジット応援メッセージ】

このような作品が作られ、  
多くの人々の目に触れるべきだとの必要性を痛感しています。  
—— 坂本龍一（音楽家）

ひとり一人の人生、ひとり一人のいのち。  
人間とは、生きるとは。  
根源的なことがこの映画から鋭く迫ってきます。  
わたしたちはここに登場する人たちと、  
決して無関係ではない、  
無視して通り過ぎることはできない。  
アジアの深い繋がりのなかで生きていることを、  
改めて突きつけられます。  
—— 大石芳野（写真家）

想像を絶する光景である。まさにこの世の地獄だ。  
スモークーマウンテンに暮らしている者は、  
ここで生まれ、ここで死ぬ運命にある。  
生と死の境界線など何もない。  
茫漠とした天と地の果てしない相克があるだけで。  
絶対的貧困があるだけで。  
この絶対的貧困は、権力による人為的な所産である。  
権力に群がる恥知らずな連中に、  
私は激しい怒りを覚えずにはいられなかった。  
—— 梁石日（作家・『闇の子供たち』）

この現実を目のあたりにしたとき、認識は行動へといざなう。  
何が出来るのか。もはや無関心ではいられない。  
—— 有田芳生（ジャーナリスト・新党日本副代表）

### 【『BASURA バスーラ』を観て】

持続する意思の力と感受性に、  
心からの共感と感謝をもって私は伝えたい。  
「非力ながら、ほんとに無念なほど非力ながら、  
ここにあなたの仲間がいる」と。  
—— 落合恵子（作家・子どもの本の専門店主宰）

腹が立つ！ムカつく！  
子供たちの夢や希望を奪い取る腐敗したフィリピン政府。  
どうかせねば・・・  
そんな正義感（感性）を奮い立たせてくれる『全く腹が立つ映画』だ。  
—— ドン小西（ファッションデザイナー）

## バスーラの子どもたちのために いま、わたしたちができること

TRATTORIA EN オーナー 涌井 康年

いつも、ご愛顧頂きありがとうございます。

当店では、このたび、7月末までの期間限定で焼き菓子の  
売り上げの50%を2010年春にフィリピンに完成した  
「バスーラの家」を通じて、ゴミ山（ゴミ捨て場）に暮らす  
子どもたちへの「日本人による子供たちへの給食プログラム」  
「教育支援」などの寄付に充てさせて頂くことにしました。

正直に告白しますと、つい数ヶ月前までフィリピンの正確な  
位置も、私は知りませんでした。

そんな私がフィリピンの子どもたちの支援をすることにな  
ったのは、2月のはじめ「田無ソーシャルメディア研究会」  
鈴木剛さんとの出逢いがきっかけでした。

4歳の子どもを持つ鈴木さんから、フィリピンの子ども  
たちの笑顔のために一緒に何かしませんかと。聞けば、  
去年偶然に『バスーラ』という映画を観て、子どもたちの  
支援がしたいという思いを持つに至ったとのこと。

僕にも4歳の子どもがいることもあり、「やれる範囲で  
やりましょう」ということで、期間を区切って取り組んで  
みようということになりました。

まずは、5月から2ヵ月間、7月末までに集まったお金を「バス  
ーラの家日本事務局」を通じて寄付することにしました。

みなさんにご協力いただいたお気持ちを大事に届けたい  
と思います。

また、8月上旬に、水道橋にある「バスーラの家 日本  
事務局」に寄付金を届けに行った際に、事務局の佐々木  
経司さんと「田無地域でできる今後のサステナブル（持続  
可能）な支援の方法」について気軽な意見交換を計画  
しています。

少しでも興味を持っていただいた方は、スタッフにひと  
声かけていただくか、涌井宛てにメールをいただければ  
詳細をご案内します。(e-mail:trattoria.en.678@gmail.com)

最後までお読みいただき有り難うございました。  
またのご来店を心よりお待ちしております。

🗣️ 涌井 康年のつぶやき 1980年栃木県茂木町生まれ。

不景気と言っても多くの方は、衣食住に困らず生活できる日本。最低限の  
生活環境も整わないフィリピンの貧しい子供達のことを考えると、ぬくぬくと  
生きている自分は「申し訳なさ」を感じます。そんな僕と、フィリピンの子ども  
たちを田無ソーシャルメディア研究会さんが偶然の縁で、繋いでくれました。  
もともと店名のトラットリアは大衆食堂、エンは「縁」「人とのご縁」を意味  
しています。

ちなみに関係ないかもしれませんが、「たった一度の人生で何を成すか」が  
僕の大事にしているテーマです。

世界の貧困の現実の一端を知ってほしい。見てほしい。  
みんなで関わって変えていく。

YouTube 「バスーラの家がフィリピンを変える！」YouTubeにて公開中

関連URL：バスーラの家（BASURA HOUSE）<http://www.basurafoundation.org>

企 画：田無ソーシャルメディア研究会有志 デザイン：TAKA（田無在住ソーシャルデザイナー）

